

平成24年度 教科に関する研究
研究主題「思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の展開」

社会・地理歴史・公民

調べ、考え、表現する力をはぐくむ社会・地理歴史・公民科学
学習指導の展開

—ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた授業づくりを通して—



目 次

平成24年度 教科に関する研究

研究主題「思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の展開」

1 主題について	1
2 授業研究	4
【授業研究1】調べ、考え、表現する力をはぐくむ社会科学習指導の展開 －小学校第6学年「江戸の文化と新しい学問」における、江戸の文化や新しい学問に関わる人物について、業績を基にキャッチコピーに表現する活動を通して－	4
【授業研究2】調べ、考え、表現する力をはぐくむ社会科学習指導の展開 －中学校第2学年地理的分野「世界の諸地域－アフリカ州－」における、アフリカ州の地域的特色について、イラストマップやキャッチフレーズに表現する活動を通して－	10
【授業研究3】調べ、考え、表現する力をはぐくむ地理歴史科学習指導の展開 －高等学校第2学年世界史A「世界の一体化と日本」における、プレゼン資料の作成及び発表から世界の一体化を理解する活動を通して－	16
3 研究のまとめ	22

教科に関する研究主題：「思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の展開」

平成21・22年度の2年間の研究では、学習指導要領や学校教育指導方針の趣旨を踏まえ、児童生徒に思考力・判断力・表現力をはぐくむことを目指して、創意工夫を生かした特色ある学習指導の研究を行った。平成23・24年度は、先の研究成果を踏まえて、より実践的な内容として、教科ごとに主題を設定し、研究を進めた。

社会・地理歴史・公民科研究主題

調べ、考え、表現する力をはぐくむ社会・地理歴史・公民科学習指導の展開

—ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた授業づくりを通して—

1 主題について

(1) 社会・地理歴史・公民科の目標について

小・中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科（以下「社会科等」という。）の目標は、平成20年1月の中央教育審議会答申（以下「答申」という。）の改善の基本方針を踏まえ、次のように示された。

「小学校社会科」 平成20年3月

- 社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

「中学校社会科」 平成20年3月

- 広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

「高等学校地理歴史科」 平成21年3月

- 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

「高等学校公民科」 平成21年3月

- 広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成として必要な公民としての資質を養う。

（下線は本資料作成者による。）

下線のように、社会科等の目標には、公民としての資質（の基礎）を養うことが示されている。小学校学習指導要領解説社会編では、公民的資質の基礎を養うためには、「地域社会や我が国の国土、産業、歴史などに対する理解と愛情を育て」とともに、調べたことや考えたことを表現する「問題解決的な学習を一層充実させ」ることが大切であることが示されている。また、中学校社会科や高等学校地理歴史科、公民科においても、「課題を設定し追究する学習（中学校社会科）」や「課題を追究する学習（地理歴史科）」、「課題追究的な学習（公民科）」など、課題解決的な学習によって、生徒が、諸課題について調べたことや考えたことを表現していく学習が重視されており、公民としての資質（の基礎）を養うために、思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習を工夫していく必要性が示されている。

(2) 研究主題について

答申の改善の基本方針では、社会科等で育成すべき思考力・判断力・表現力と関わって、次のように示している。

社会科等の改善の基本方針（抜粋）

- 社会科、地理歴史科、公民科においては、その課題を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校を通じて、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る。
- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から、（中略）コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する方向で改善を図る。
(下線は本資料作成者による。)

以上のように、社会科等の学習では、必要な情報を集めて読み取ること、多面的・多角的に考察し公正に判断することで社会的事象の意味や意義を解釈すること、それらを基に事象の特色や事象間の関連を説明することや自分の考えを論述することが、これまでも重視されてきた。今回の改訂においても「（それらを）一層重視する方向で改善を図る」ことが示されている。このことから、研究主題「調べ、考え、表現する力をはぐくむ社会・地理歴史・公民科学習指導の展開」を設定した。

(3) 研究の基本方針

平成22年度の研究では、県学力診断のためのテストの結果において、社会的事象を比較、関連付けて自分の考えを表現することに課題が見られたことから、事象の特色や事象間の関連を説明する言語活動を中心とした授業の実践研究を行った。その結果、単元の目標及び学習内容を踏まえた言語活動の実践事例を提示することができた。

本研究では、社会科等で育成すべき思考力・判断力・表現力を身に付けさせる学習指導を、意図的・計画的に行っていくための実践的研究を行う。特に、授業づくりという観点から、指導計画の作成及び社会科等の学習活動における言語活動の役割に焦点を当てていきたい。具体的には、ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた指導計画を作成し、調べた事実に基づいて、互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にするための言語活動を工夫することで、社会科等で育成すべき思考力・判断力・表現力を身に付けさせたいと考える。

(4) 主題に迫るために

- | | |
|---|-----------------------------------|
| ア | ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた指導計画の工夫 |
| イ | 互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にするための言語活動の工夫 |

この2点を踏まえ、具体的な手立てを講じた授業研究を行う。

2 授業研究

【授業研究1】

調べ、考え、表現する力をはぐくむ社会科学学習指導の展開
—小学校第6学年「江戸の文化と新しい学問」における、江戸の文化や新しい学問に関わる人物について、業績を基にキャッチコピーに表現する活動を通して—

1 授業研究に当たって

本単元では、江戸幕府が政治を行った時代の文化や学問のうち、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学の二つの歴史的な事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを理解することを目標としている。

社会科の授業に関する意識及び実態調査では、18人の児童が調べる学習が好きと答えており、その際に「大切なこと」として、17人の児童が「何を調べるのかが分かっていること」と答えている。「自分の考えをきちんと表現する」ためには、18人が「調べたことがよく分かること」、15人が「資料を的確に読み取ること」が必要と答えている。これらのことから、児童は調べる学習において、見通しをもって資料を的確に読み取り、その内容が理解できたときに自分の考えを表現することができたと考えていることが分かる。一方、キーワードを結び付けて、主な歴史的な事象について正しく説明することができた児童は少ない。これは、歴史的な事象を断片的な知識でのみ捉えており、事象間の関連やその意味について捉えることができていないからだと思われる。

そこで本単元では、まず江戸の町人の生活や文化・学問について大まかに調べ、「当時の人々の生活を大きく変えたのはだれか。」という単元を貫く学習課題を設定する。次に、それに関わる人物の業績や努力の様子などについて調べて考え、自分の判断を導き出していくようにする。さらに、根拠を明確にして「当時の人々の生活を大きく変えた人物」への投票を行い、自分の考えを表現できるようにする。これらの活動を通して、本単元のねらいに迫るとともに、調べ、考え、表現する力をはぐくんでいきたいと考える。

表1 社会科の授業に関する意識及び実態調査

(平成24年5月25日実施 第6学年 22人)

質問1 調べる学習が好きですか

はい	18	ふつう	3	いいえ	1
----	----	-----	---	-----	---

質問2 調べる学習をするときに大切なことは何ですか。(複数回答)

調べる手段(インターネット、資料集、地図帳)があること。	16
何を調べるのかが分かっていること。	17
資料を読み取る力があること。	8

質問3 自分の考えをきちんと表現するためには、どんなことが必要ですか。

課題が分かること	12	十分に調べること	4
調べたことがよく分かること	18	資料を的確に読み取ること	15
表現の仕方が分かること	9	先生が助言してくれること	2

質問4 次のできごとや事ごを説明しなさい。

大化の改新<中大兄皇子 中臣鎌足 そが氏>	14
藤原道長が権力を手に入れた方法<むすめ 天皇>	13
聖武天皇が大仏を作らせた理由<社会 仏教>	8
ご恩と奉公の関係<將軍 武士 領地>	10

2 主題に迫るための具体的な手立て

(1) ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた指導計画の工夫について

ア 時代の変化を捉えるための複数の資料を比較する活動

導入時には、江戸時代の人々の生活の様子について複数の資料を提示し、室町時代や戦国時代と大きく変わっている理由を考えることから、単元を貫く学習課題を設定する。また、町人の文化である歌舞伎や浮世絵、新しい学問である国学や蘭学などについて、複数の資料を比較しながら追究活動を行うことで、「町人の文化が栄え新しい学問が起こったこと」について考えていけるよう調べ学習を行う。

イ 人々の生活を大きく変えた時代の特色をキャッチコピーにまとめる活動

町人の文化や新しい学問に関わる人物の業績を基に、その人物が人々の生活を大きく変えたとする主張点をワークシートにまとめる。次に、それを活用して町人の文化や新しい学問に関わる人物についてのキャッチコピーを作成する。

(2) 互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にするための言語活動の工夫について

ア 「総選挙」を行うためのキャッチコピーを伝え合う活動

同じ人物を選択したグループでの話し合いにより、その人物を最も適切に表現しているキャッチコピーを選び、全体に伝え合う活動を行う。

イ 自分の考えを明確にするために投票をする活動

各グループから提示されたキャッチコピーを基に、単元を貫く学習課題「当時の人々の生活を大きく変えたのはだれか。」について考え、自分の考えを明確にするために投票を行う。

ウ 前の時代と比べ、当時の時代の特色について考えたことを表現する活動

本単元のまとめとして、時代の特色の変化を自分の言葉でまとめ、自分の考えを明確にした上で、互いの考察を説明し合う活動を行う。

3 授業の実践

(1) 単元名 江戸の文化と新しい学問

(2) 単元の目標

江戸の文化や新しい学問について調べ、それらに関わる人物の働きや代表的な文化遺産の様子が分かり、社会が安定するにつれて町人の文化が栄え、新しい学問が起こったこと、それらが新しい時代への動きに影響を与えたことを考えるようにする。

(3) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的な事象についての知識・理解
・江戸の文化や新しい学問とそれらに関わる人物の働きや代表的な文化遺産に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。	・学習課題や予想、調べた計画を考え、調べたことを比較したり関連付けたり、総合したりして、人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考え適切に表現している。	・必要な情報を集めて読み取ったり、文化財や年表、博物館、その他の資料を活用して調べたりしたことをまとめている。	・社会が安定するにつれて町人の文化が栄え、新しい学問が起こったこと、それらが新しい時代への動きに影響を与えたことを理解している。

(4) 指導と評価の計画（6時間）

〔関〕・・・関心・意欲・態度 〔思〕・・・思考・判断・表現 〔技〕・・・技能 〔知〕・・・知識・理解

時	主な学習活動（丸数字は言語活動）	言語活動の意図	評価規準（評価方法）
1	<p>① 資料「江戸のまち」の様子から、この当時の人々の生活について思ったことや考えたこと、気付いたことをまとめる。</p> <p>② 単元を貫く学習課題を設定する。</p> <p>当時の人々の生活を大きく変えたのはだれか？ ～「総選挙」をしよう。～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 江戸のまちの特色を表す事柄を絵図から読み取り、前時までに学習してきたことと比較することで、学習課題を見い出す。 それぞれの学習課題を発表し合い、見通しをもちながら単元を貫く学習課題を設定する。 	<p>〔関〕 資料から読み取ったことを基に、江戸の文化や社会の様子に関心をもっている。（観察、ノート）</p> <p>〔思〕 江戸の文化や社会の様子から読み取ったことを基に、学習課題を考えている。（ノート）</p>
2	<p>① 資料「歌舞伎を楽しむ人々」からどのような人たちが歌舞伎を見に来ているのかを予想する。</p> <p>2 本時の学習課題を確かめる。</p> <p>歌舞伎は、人々の間にどのようにして広がっていったのかな。</p> <p>③ 歌舞伎やその他の文化について調べ、話し合う。 (1)歌舞伎について (2)その他の文化について</p> <p>④ 江戸時代の文化について分かったことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どのような人たちが歌舞伎を見に来ているのかを資料から読み取る。 歌舞伎の映像を見る活動を通して、歌舞伎の魅力について感じ取ったことを、自分の言葉でまとめる。 江戸時代の文化について分かったことを、分かりやすくノートに表現する。 	<p>〔技〕 歌舞伎を見に来ている人たちはどのような人たちなのか、服装や髪型などの資料を基に予想している。（ノート）</p> <p>〔思〕 歌舞伎の映像から、歌舞伎を人々が楽しみにしていた理由を考え、表現している。（ノート）</p> <p>〔知〕 江戸時代の文化について分かったことをノートにまとめている。（ノート）</p>
3	<p>① 雪舟の「水墨画」と安藤広重の「浮世絵」を比べて分かったことや気付いたこと、考えたことを話し合う。</p> <p>2 本時の学習課題を確かめる。</p> <p>浮世絵は、人々の間にどのようにして広がっていったのかな。</p> <p>③ 浮世絵について調べ、話し合う。</p> <p>④ 浮世絵が世界に与えた影響についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料「水墨画」と「浮世絵」を比較し、浮世絵の特色をノートに書き出す。 浮世絵がどのようにして作られているのかを資料から読み取る。 資料「ゴッホ」と「安藤広重」の作品から浮世絵の魅力について感じ取ったことを、自分の言葉でまとめる。 	<p>〔関〕 浮世絵について関心をもっている。（観察、ノート）</p> <p>〔技〕 浮世絵や歌川広重らの働きと社会の変化について、各種の資料を活用して調べている。（ノート）</p> <p>〔思〕 浮世絵の資料から、浮世絵が世界に与えた影響について考え、その理由を表現している。（ノート）</p>
4	<p>① 資料「中国の医学書」と「解体新書」の解剖図、「伊能図」と「それ以前の地図」を比べて分かったことや気付いたこと、考えたことをノートにまとめる。</p> <p>2 本時の学習課題を確かめる。</p> <p>蘭学は、社会にどのようなえいきょうをあたえたのかな。</p> <p>③ 杉田玄白たちや伊能忠敬の苦労やその影響を調べ、話し合う。</p> <p>④ 学問の広がりによって世の中がどのような影響を受けたかを考え、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の医学の様子について資料から読み取ったことを、根拠をもってノートに表現する。 杉田玄白や伊能忠敬の思いや努力、苦労について感じ取ったことをワークシートに表現する。 新しい学問の広がりが世の中に与えた影響について発表し合い、お互いの考えを深め合う。 	<p>〔関〕 当時の医学の様子について関心をもっている。（観察、ノート）</p> <p>〔思〕 杉田玄白や伊能忠敬について調べ、二人の苦労や社会に与えた影響を表現している。（ワークシート）</p> <p>〔技〕 西洋の学問を学び、日本の社会や政治に役立てようとする人々が増えたことを読み取り、まとめている。（ノート）</p>
5	<p>1 本時の学習課題を確かめる。</p> <p>国学は、社会にどのようなえいきょうをあたえたのかな。</p> <p>② 国学について調べ話し合う。</p> <p>③ 歴史民俗資料館の方から新しい学問が社会に与えた影響について、話を聞く。</p> <p>4 次時の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本居宣長の功績を資料から読み取る。 専門家の話を聞き、新しい学問が社会に与えた影響について考えたことを自分の言葉で表現する。 	<p>〔知〕 本居宣長らの功績を調べ、国学の広がりが社会や政治に批判的な目を向ける動きにつながったことを理解している。（ワークシート）</p> <p>〔思〕 社会の変化を幕府や藩の力の衰えと関連付けて考え、政治の改革を求める動きが出てきたことをノートに表現している。（ノート）</p>
6 本時	<p>1 本時の学習課題を確かめる。</p> <p>当時の人々の生活を大きく変えたのはだれか？ ～「総選挙」をしよう～</p> <p>② 選択した人物の功績を基に主張点を考え、キャッチコピーに表現する。</p> <p>③ 人物グループの主張点を発表し合う。</p> <p>4 江戸の学問・文化の人物の投票を行う。</p> <p>⑤ 前の時代と比べて、当時の時代の特色をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 選択した人物の功績を基に、その人物のキャッチコピーを考え、表現する。 自分のキャッチコピーと主張点を伝え合う。 前の時代と江戸時代の特色の違いについて、自分の言葉で表現する。 	<p>〔思〕 人々の生活に影響を与えた人物の功績を基にキャッチコピーに表現している。（ワークシート）</p> <p>〔知〕 町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを理解している。（ノート）</p>

(5) 本時の指導

ア 目標

江戸の文化や新しい学問に関わる人物の功績を基にキャッチコピーを考える活動を通して、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを理解することができる。

イ 準備・資料

選挙ポスター、キャッチコピー記入短冊、掛け図、ワークシート

ウ 展開

学習活動・内容（丸数字は言語活動）	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 当時の人々の生活を大きく変えたのはだれか？ ～「総選挙」をしよう～ </div></p> <p>② 選択した人物の主張点を考え、キャッチコピーとしてまとめる。</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近松門左衛門 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの楽しみ義理と人情 歌舞伎と人形浄瑠璃 ・1度は見なくちゃ 近松の歌舞伎 ○安藤（歌川）広重 <ul style="list-style-type: none"> ・世界のゴッホもまねした実力！ ・浮世絵は旅行気分を味わえる ・写真は無いけど浮世絵はある ○本居宣長 <ul style="list-style-type: none"> ・政治を変えた国学者 本居宣長 ・やっぱり日本人は こう生きる ・おまかせください、けが病気 ・健康第一！「解体新書」 ○伊能忠敬 <ul style="list-style-type: none"> ・旅行に行くなら 地図を忘れずに ・日本は広いな大きいな <p>③ 各人物グループの主張点・キャッチコピーを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近松門左衛門 ・安藤（歌川）広重 ・本居宣長 ・杉田玄白 ・伊能忠敬 <p>4 江戸の学問・文化の人物の投票を行う。</p> <p>⑤ 前の時代と比べて、当時の時代の特色についてまとめる。</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活が安定し、町人の間に歌舞伎や浮世絵が広がった。 ・国学や蘭学などの新しい学問が起こった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意欲を高めるために、既習の文化や学問に関わる人物の選挙ポスターを用意する。 ・児童にキャッチコピーの意味や役割を知らせるために、例文を提示する。 ・主張点からキャッチコピーをまとめることができた児童には、短冊に記入することを伝える。 ・同じ人物を選択した児童同士の考えを共有するために、お互いの意見を伝え合うよう助言する。 ・思うようにキャッチコピーがまとめられない児童には、選択した人物が人々の何を変えたのかと問いかけ、功績を振り返らせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[思] 人々の生活に影響を与えた人物の功績を基にキャッチコピーに表現している。 (キャッチコピー)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・主張点を明確にするために、キャッチコピーを選挙ポスターに掲示し、簡単にその根拠についても説明するよう助言する。 ・総選挙で速やかに投票するために、他のグループの発表を聞く際には、必要があればメモをとるよう助言する。 ・公正な投票を行うために、発表した人物以外にネームプレートを使って投票することを確認する。 ・当時の時代の特色を戦国時代と比較させるために、戦国時代の社会の様子や人々の生活はどうだったのかと問いかける。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[知] 町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを理解している。 (ワークシート)</p> </div>

4 授業の分析と考察

(1) ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた指導計画の工夫について

ア 時代の変化を捉えるための複数の資料を比較する活動について

導入時に提示した「江戸の日本橋付近の様子」，「歌舞伎を見る人々」，「本の問屋の店先」，「オランダ正月」の資料から，学習課題を設定するための問いをワークシートにまとめる活動を行った。児童は，資料1のような問いを設定し，それらを基に話し合うことで，「当時の人々の生活を大きく変えたのはだれか。」という単元を貫く学習課題が設定できた。

調べ学習では，当時の文化にどのような変化があったのかを比較するために複数の資料を提示し活用した。例えば，第4時には，中国から伝えられた解剖図と杉田玄白らによって翻訳された「解体新書」の解剖図を提示し，比較しながら検討する学習を行った。

授業後の児童の感想には，「杉田玄白たちが，中国での研究成果を勉強しながら，苦勞して作り上げた解体新書によって，前の時代より多くの人々の病気を治すことができるようになってよかった。」との記述が見られた。複数の資料を比較する活動は，時代の変化を捉えることに有効であったと考える。

イ 人々の生活を大きく変えた時代の特色をキャッチコピーにまとめる活動について

はじめに，単元の学習を通して，自分で「当時の人々の生活を大きく変えた」と思われる人物を選択し，その人物について調べた内容を再構成し，主張点としてワークシートにまとめる活動を行った。次に，児童は，そのワークシートを活用して，資料2のようなキャッチコピーに表現する活動を行った。

歌川広重を選択した児童は，主張点に「広重は，浮世絵をかいて世界の画家にえいきょうを与えたから。」，

「広重のかいた浮世絵が当時のベストセラーだったから。」と記述している。この主張点を基に「広重は 浮世絵師として 大活躍」とキャッチコピーを作成していた。また学級の全員が，各人物の特徴をキャッチコピーとして，短い言葉で表現すること

ができた。人々の生活を大きく変えたとされる人物をキャッチコピーに表現する活動は，時代の特色を捉えることに有効であったと考える。

資料1 児童が記入した問いの例

- 1 人口が多いのはなぜ。
- 2 江戸時代にはどのような本が売られていたのか。
- 3 なぜ，オランダ人と正月を祝っているのか。
- 4 なぜ，洋服を着ている人がいるんだろう。
- 5 米俵を積んだ船はどこから来たんだろう。
- 6 歌舞伎は，どんな人が見に来たのかな。
- 7 浮世絵は誰が買ったのかな。

資料2 児童の考えたキャッチコピーの例

【本居宣長】

- ・35年かけて「古事記伝」を完成させた

【伊能忠敬】

- ・正確に 歩いてつくった 日本地図

【杉田玄白】

- ・蘭学を 学び作った 解体新書

【歌川広重】

- ・広重は 浮世絵師として 大活躍

(2) 互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にするための言語活動の工夫について
ア 「総選挙」を行うためのキャッチコピーを伝え合う活動について

3～4人の小グループで、互いに「キャッチコピー」とその主張点を伝え合う活動を行った。この活動では、聞く側の児童からの「どうしてそのようなキャッチコピーにしたのか」などという質問に対し、伝える側が答えるといった質疑応答の場面が見られた。さらに、グループの中で最もその人物のことを表現していると考えられるキャッチコピーを話し合いで決定し、学級全体に紹介したことにより、互いの考察を説明し合うことができた。

イ 自分の考えを明確にするために投票をする活動について

各グループから出されたキャッチコピーを基に、本単元の学習課題「人々の生活を大きく変えたのはだれか？」について考え、資料3にあるように、全員で投票を行った。本学級の投票結果では、伊能忠敬が最も多い票を集めた。伊能忠敬に投票した理由には、「50才を過ぎてから天文学や測量術を学び、17年間歩き続けて正確な地図を作ったから」、「日本中を17年も歩き続けて、現在の地図とほとんど同じような日本地図を作り上げたから」などが記述されるなど、自分の考えを明確にすることができた。

資料3 「総選挙」で投票する様子



ウ 前の時代と比べ、当時の時代の特色について考えたことを表現する活動について

本単元のまとめとして、前の時代との特色の違いをワークシートにまとめる活動を行った。児童は、おおよそ全員が「平和」、「争いがない」という語句を使って、その違いを説明をしていた。児童は、当時の時代の特色について、「戦国時代などのくらしとくらべて、今、現代（平成時代）みたいに、平和でおだやかなくらしみたいです。（中略）明るく感じる時代だと私は思います。」と記述している。この活動によって、歌舞伎や浮世絵などの文化や蘭学や国学などの新しい学問が起った時代の特色について、考えることができた。

5 授業研究の成果

- (1) 複数の資料を比較しながら調べたことを基にして、主張点として再構成し、人物のキャッチコピーにまとめる学習活動は、調べ、考えたことを表現する手立てとして有効であった。
- (2) 主張点を基に考えたキャッチコピーを伝え合い、総選挙で投票する活動は互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にし、表現する手立てとして有効であった。

【授業研究 2】

調べ、考え、表現する力をはぐくむ社会科学学習指導の展開
 —中学校第2学年地理的分野「世界の諸地域—アフリカ州—」における、アフリカ州の地域的特色について、イラストマップやキャッチフレーズに表現する活動を通して—

1 授業研究に当たって

本単元は、世界を州別の6地域区分にし、それぞれに暮らす人々の生活に関わり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から、州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させることをねらいとしている。小単元「アフリカ州」では、「アフリカのこれまでとこれから」という主題を追究する活動の中で、脆弱な経済基盤とその理由、これからの課題等について考察しながら動態地誌的に地域的特色を捉えられるようにすることをねらいとしている。

表1 思考力・判断力・表現力に関する意識調査（平成24年6月11日 第2学年 29人）

質 問	得意	少し得意	少し苦手	苦手
1 授業での学習課題について、深く考え、自分なりの考えや意見をもつこと	4	6	12	7
2 学習した内容を年表や図、グラフや新聞などにまとめたりすること	9	7	8	5
3 地図やグラフ、表などの内容を読み取って何かを考えること	3	8	10	8
4 グループ学習での話合いや意見交換をすること	3	4	14	8

思考力・判断力・表現力に関する意識調査（表1）から本学級の生徒は、地図帳や資料集などを用いて調べ、グラフや新聞などにまとめることが得意な生徒は比較的多い（質問1, 2）。しかし、既習事項である「ヨーロッパ統合の理由を説明しなさい。」という実態調査では、その地域的特色を捉えて説明できた生徒は7人であった。地図やグラフ、表などの内容を読み取って何かを考えたり（質問3）、自分なりの考えや意見をもって他者と意見交換をしたりすること（質問4）を苦手とする生徒が多く、個人差が大きい。これまでの授業において、地域的特色を大観し、捉えた特色を多面的・多角的に思考し、表現する経験が少なかったことがその原因だと考える。

そこで、まず、アフリカのあらましを調べ、地域的特色を大観することで捉えた事実を基にキャッチフレーズをつくり、それらを比較する活動を通して「アフリカのこれまでとこれから」という単元の学習課題を設定する。次に、アフリカの「産業や産業以外のこれまで」について、事実を調べて白地図にまとめ、そこに見られる諸問題が発生した理由をグループで話し合う。最後に、「アフリカのこれから」について、「どのようにすればアフリカ州は発展していくか」という話合いを基に、アフリカ州にキャッチフレーズを付ける活動で単元のまとめとし、調べ、考え、表現する力を育てていきたい。

2 主題に迫るための具体的な手立て

(1) ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた指導計画の工夫について

ア 調べたことの整理、考察のためのイラストマップづくり

導入時に、都市部とスラム街、国立公園などの写真資料を提示して関心を高めるとともに、アフリカに正負の両面から疑問をもたせることで、単元を貫く学習課題「アフリカのこれまでとこれから」を設定する。そして、基本的なアフリカのあらまし及び「アフリカの産業」について調べたことを整理するために、イラストマップにまとめる活動を行う。また、「アフリカの産業以外のこれまでとこれから」では、自分が調べたい地理的事象を選択し、イラストマップにまとめていくようにする。それぞれのイラストマップは、アフリカが抱える問題の原因についての共通性やアフリカのこれからについての話合いの際に、各自が考察するための資料にする。

イ 地域的特色を表現するためのキャッチフレーズづくり

まず、単元の初めに大観したアフリカのイメージをキャッチフレーズに表しておく。次に、調べる活動を通して学んだ地域的特色を基に、単元のまとめにおいて再度キャッチフレーズを付ける活動を行い、最初に付けたキャッチフレーズと比較することで、学習の深まりを実感させる。

(2) 互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にするための言語活動の工夫について

ア 互いに調べたことを伝え合う活動

アフリカが抱える産業以外の問題について調べた内容をグループ内で伝え合うことで、多面的・多角的な考え方ははぐくむとともに、問題発生の原因について自分なりの考えを自分の言葉で伝え合うようにすることで、表現力を育てたい。

イ 互いに調べたことから共通性を見いだす活動

アフリカが抱える産業以外の問題について伝え合った後、問題発生の原因について共通性がないか、グループで話し合う活動をする。この話合いから、アフリカの脆弱な経済基盤について気付かせ、思考力・判断力をはぐくみたい。

3 授業の実践

(1) 単元名 世界の諸地域ーアフリカ州ー

(2) 単元の目標

アフリカ州について設定した主題を調べ、産業をはじめとする様々な地理的事象からその地域的特色が分かり、「アフリカのこれまでとこれから」について考えられるようにする。

(3) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用技能	社会的な事象についての知識・理解
・アフリカ州が生産物の輸送や開発のための技術を海外に頼っていることに関心を持ち、設定された学習テーマを意欲的に追究しようとしている。	・アフリカ州の国々の他国への依存からの脱却が進められてきた過程について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・収集した資料から、アフリカ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	・アフリカ州について、「アフリカのこれまでとこれから」という学習テーマを基に、地域的特色を理解している。

(4) 指導と評価の計画（4時間）

〔関〕・・・関心・意欲・態度 〔思〕・・・思考・判断・表現 〔技〕・・・技能 〔知〕・・・知識・理解

時	主な学習活動（丸数字は言語活動）	言語活動の意図	評価規準（評価方法）
1	<p>1 学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アフリカ州の地域的特色を調べよう。</p> <p>② アフリカ州の地域的特色を教科書・資料集・写真資料等で調べ、ワークシートにまとめる。 ・自然 ・歴史と文化 ・伝統的な産業</p> <p>③ アフリカ州の地域的特色を「○○なアフリカ」というキャッチフレーズに表現する。</p> <p>4 単元の学習課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アフリカのこれまでとこれからについて考えよう。</p>	<p>・写真資料や気候帯の分布図から、気候や地形の特色を読み取ったり、年表や統計資料から、歴史や伝統的な産業を読み取りまとめたりすることで、地域的特色を大観させる。</p> <p>・生徒が抱いたアフリカ州のイメージをキャッチフレーズに表現することで、単元末の学習に結び付ける。</p>	<p>〔関〕 意欲的にアフリカの地域的特色を調べようとしている。（ワークシート）</p> <p>〔思〕 調べた地域的特色に基づいて、キャッチフレーズに表現している。（キャッチフレーズ）</p>
2	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アフリカの産業のこれまでとこれからについて調べよう。</p> <p>② 主要国の経済状況と生産物、貿易の様子、主要生産品とアフリカに暮らす人々の生活との関連、旧宗主国と先進国との結び付き等を調べ、イラストマップにまとめる。</p> <p>③ 調べた内容をグループ内で発表し、アフリカの産業の課題を話し合う。</p>	<p>・調べた内容をイラストマップにまとめることで、産業についての特色を捉えさせる。</p> <p>・アフリカの輸出品の特色と問題点を話し合うことで、アフリカの産業の課題について考えを深める。</p>	<p>〔技〕 主要国の人々の生活を資料を基にしてイラストマップにまとめている。（イラストマップ）</p> <p>〔思〕 アフリカが抱える産業の課題とこれからの展望について、自分の考えを説明している。（発表）</p>
3 本時	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">産業以外のアフリカのこれまでとこれからについて考えよう。</p> <p>② アフリカが抱える課題について各自が選択した内容を調べ、イラストマップにまとめる。 ・人口増加 ・都市問題 ・地域紛争 ・砂漠化 ・乳児死亡率 ・エイズの感染 ・環境問題</p> <p>③ 各自が調べた内容をグループ内で発表し、なぜそのような問題が発生しているかという共通点について話し合う。</p>	<p>・調べた内容をイラストマップにまとめることで、それぞれの課題をつかませる。</p> <p>・互いの意見を出し合い原因について話し合うことで、共通点を導き出す。</p>	<p>〔知〕 アフリカが抱える課題について理解したことをイラストマップにまとめることができる。（イラストマップ）</p> <p>〔思〕 アフリカが抱える課題と共通の原因について、自分の考えを説明している。（発表）</p>
4	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アフリカのこれからについて話し合おう。</p> <p>② アフリカのこれからについて、どうしていくことが良いのかを話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アフリカの地域的特色をキャッチフレーズで表現しよう。</p> <p>③ アフリカ州の地域的特色を「○○なアフリカ」というキャッチフレーズに表現する。</p>	<p>・前時までに調べた課題に基づいて、アフリカのこれからについて、意見を出し合う。</p> <p>・アフリカの地域的特色のまとめとして、アフリカ州のイメージを、短文で表現する。</p>	<p>〔思〕 アフリカの展望について、自分の考えを説明している。（発表）</p> <p>〔思〕 調べた地域的特色に基づいて根拠を明らかにして、キャッチフレーズにまとめている。（キャッチフレーズ）</p>

(5) 本時の指導

ア 目標

都市化・人口増加・環境問題等の産業以外の視点から、アフリカの課題について理解し、問題発生の原因について考えることができる。

イ 準備・資料

教科書、地図帳、資料集、アフリカ州地図、掛け図、プロジェクタ、ノートPC、スクリーン、ワークシート

ウ 展開

学習活動・内容（丸数字は言語活動）	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 産業以外のアフリカのこれまでとこれからについて考えよう。 </div> <p>② アフリカの都市化、人口増加、環境問題などの課題について調べ、イラストマップにまとめる。</p> <p>【調べる課題の例】</p> <p>a 都市問題 b 人口増加 c 地域紛争 d 砂漠化 e 乳児死亡率 f エイズの感染 g 環境問題 h 難民問題 i 貧困問題</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部は、日本とあまり変わらない。 ・なぜ、スラムという居住区があるのだろうか。 ・なぜ、各国の都市部は人口増加率が高いのかな。 ・紛争や内戦は、北アフリカに多い。 ・砂漠化と人口増加には関係がありそうだ。 ・乳児死亡率が高いのは、医療や食糧の問題と関係がありそうだ。 ・エイズの感染率が高いのは北アフリカだ。 ・農地の拡大が、環境問題につながっている。 ・難民は、中央アフリカの国に多い。 ・なぜ、アフリカはこんなに貧困に苦しむ国が多いのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、前時で調べた産業以外のアフリカが抱える課題について自分が選択した課題を調べ、原因の共通点をグループで話し合うことを説明する。 ・各課題の統計資料を与え、必要な情報だけをイラストマップにまとめるように助言する。 ・スラムにおける社会資本の未整備に気づき、都市の経済格差を捉えることができるように、写真資料を参考にするように助言する。 ・一次産品の輸出によって、一部の人だけが豊かになっていることを説明した上で、都市への人口集中の問題も助言する。 ・貧富の差に気付くことができるように、南アフリカ共和国の都市部・住宅街等の写真資料を提示する。 ・アフリカの乳児死亡率の高さを把握するために、資料から西部・中部アフリカと日本の乳児死亡率を比較するように助言する。 ・エイズの感染は、医療の遅れや貧困とも関係していることに注目させる。 ・イラストマップには、アフリカのどんな所で、どの程度なのかという現状を必ず明記するように指示する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[知] アフリカが抱える課題について理解したことを、イラストマップにまとめることができる。</p> <p style="text-align: right;">（イラストマップ）</p> </div>

<p>③ 各自が調べた内容をグループ内で発表し、比較することで、課題が発生した原因についての共通性を見いだす。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不利な貿易等により、経済状態が良くないというのが全ての原因ではないか。 ・地域紛争など、政治的に安定していないのが原因ではないか。 ・国連や政府開発援助など、各国からの援助が足りないのも原因ではないか。 ・学校に通えない子どもがたくさんいることから、教育の遅れも原因ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで司会者を決め、各自イラストマップを示しながら、調べた内容を順に発表するように助言する。 ・前時で調べた産業の問題点についても言及しながら、共通点を見いだすように助言する。 ・各班でまとめた内容を比較できるように、話し合いの結果を短冊黒板に記入し、黒板に貼るよう指示する。 <p>[思] アフリカが抱える課題と共通の原因について、自分の考えを説明している。</p> <p>(ワークシート、発表)</p>
---	---

4 授業の分析と考察

(1) ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた指導計画の工夫について

ア 調べたことの整理、考察のためのイラストマップづくりについて

図1は、「アフリカの産業のこれまでとこれから」についてまとめた生徒作成のイラストマップである。この生徒は、アフリカの地図に、農業と鉱業についてまとめ、分かりやすいように色分けをしたり、簡単なイラストを描いたり、円グラフや帯グラフを用いたりしてまとめている。そして、農業と鉱業の課題について、文章でまとめている。このように、イラストマップにまとめ表現する活動は、地理的事象をより多面的・多角的に捉え、考察したことを分かりやすく表現するのに有効であったと考える。また、話し合いの際には記載されている事実を基にして話し合う姿が見られるなど、イラストマップは、考察したことを伝え合う活動においても役立った。

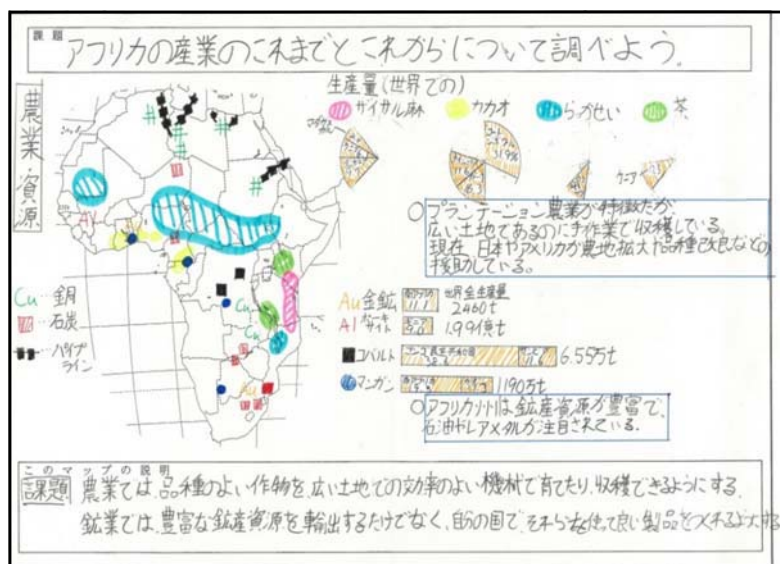


図1 生徒が作成した「アフリカの産業」についてのイラストマップの例

イ 地域的特色を表現するためのキャッチフレーズづくりについて

図2 (p15) は、生徒が作成したキャッチフレーズの例である。「多様な民族と文化がある…。しかし、貧困に悩むアフリカ」というキャッチフレーズである。

これまでに調べた内容を総合的に判断し、「豊かな文化は存在するが、貧困に苦しむなど、現在も未解決な様々な課題を抱えている。」というアフリカの地域的特色を表現することができた。このように、「アフリカのこれまでとこれから」という課題を基に調べ活動を行いキャッチフレーズに表現することは、地理的事象の関連や意味について考え、地域的特色を捉える手立てとして有効であったと考える。

(2) 互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にするための言語活動の工夫について

ア 互いに調べたことを伝え合う活動について

アフリカにおける産業以外の課題について、誰がどの課題を調べるかを話し合い、グループ内で分担した後、イラストマップにまとめ、各自が調べた内容を伝え合った。多面的・多角的な視点から話し合いを行うことで、各自の考えを広げたり、深めたりすることができた。その際、問題発生の原因について自分なりの考えを自分の言葉で伝え合うことで、思考力をはぐくむことができたと考える。

イ 互いに調べたことから共通性を見いだす活動について

アフリカが抱える産業以外の問題について伝え合った後、問題発生の原因について、共通する部分がないかを焦点として、グループでの話し合いを行った。「作物しか輸出してないから不利な貿易で、経済状態が良くないのがいけない。」、「紛争など、戦争状態になっているのが良くない。」、「貧困の状況があることが良くない。」などの意見が出され、脆弱な経済基盤に気付くなど、共通性を見いだす話し合いにより、思考力や判断力を高めることができたと考えられる。

5 授業研究の成果

- (1) アフリカの課題について調べた内容をイラストマップに表現する活動を通して、地理的事象や地域的特色をより多面的・多角的に捉え、分かりやすく表現する力をはぐくむことができた。
- (2) アフリカの課題に見られる共通性について話し合う活動を取り入れることで、地理的事象の関連や意味をより多面的・多角的に考える力をはぐくむことができた。
- (3) アフリカの地域的特色をキャッチフレーズに表現する活動を通して、アフリカ州を大観し、地域的特色を的確に表現する力をはぐくむことができた。

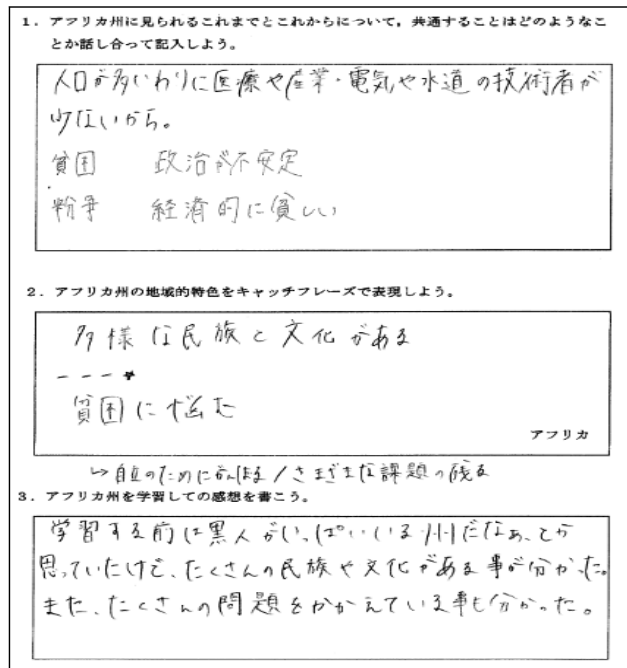


図2 アフリカ州のキャッチフレーズについて考えたワークシートの例

【授業研究 3】

調べ、考え、表現する力をはぐくむ地理歴史科学習指導の展開
—高等学校第2学年世界史A「世界の一体化と日本」における、プレゼン資料の作成及び発表から世界の一体化を理解する活動を通して—

1 授業研究に当たって

本単元「世界の一体化と日本」は、近現代世界を理解するための前提として、ユーラシアの諸文明の特質に触れるとともに、16世紀以降の世界商業の発展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう過程を理解することをねらいとしている。そのうち、小単元「結び付く世界と近世の日本」では、大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を理解することをねらいとしている。

本校生徒は、授業中は静かに板書を書き写すという受動的な態度が主であり、各種の情報・資料の収集と、活用、論述、発表、討論などの能動的な活動に不慣れである。しかし、生徒への意識調査によると、世界史Aの授業に対し、①実際に現地に赴く、②現地の人や専門家を招く、③PCを活用する、④グループ活動で調べたり発表したりするなどの能動的な活動を希望していることが分かった。

この結果を踏まえ本単元では、16世紀以降の世界の各地域の変容について、班別に調べる学習を行い、その学習内容をプレゼンテーションソフトを用いて発表していくという学習過程を設定することとした。具体的には、一つのテーマについて①概要を調べる、②その地域がその歴史的事象の起こる以前にどのような状態であったかを調べる、③特徴的な人物や事象についてまとめる、④その歴史的事象の歴史的意義についてまとめるという四つの活動に分け、4人一組の構成で分担することとした。また、発表時にはスライドを用いるため、文字の色や大きさ、使用する写真資料の内容、より伝わりやすい説明時の声の大きさや話し方などについて工夫することを求めた。これらの活動を通して、資料を活用して習得した知識を表現する力を養いつつ、16世紀以降に世界が一体化していく全体的な世界史の流れについての理解を図っていこうと考えた。

2 主題に迫るための具体的な手立て

(1) ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた指導計画の工夫について

ア 資料から情報を読み取り、知識を習得するための事前指導

各自が担当したテーマについて図書館等で調べる学習を行い、A4判1枚のレポートを事前に提出する。複数の資料から情報を収集し、重要と考えられる知識や発表に効果的な資料を選択して作成するように助言する。作成したレポートに対して教師が助言し、改善を図る過程を繰り返すことで、学習内容についての理解を深めるとともに、他者に分かりやすく説明するための資料作成が可能になると考える。

イ 資料から読み取った情報を伝達するためのプレゼンテーションソフトによる発表用資料作成

より分かりやすい発表用資料を作成するために、プレゼンテーションソフトを使用する。発表時間を加味しながら学習内容の量や質を確保するために、スライドはおおむね10枚程度とする。また、視覚的に理解を深めることができるように、発表内容に関する写真や画像をできるだけ使用するとともに、文字の色や大きさ、アニメーションの効果的な活用を工夫する。この活動を通じて、生徒は図書資料やインターネット等から得た情報を、自分の知識として習得できると考える。

(2) 互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にするための言語活動の工夫について

ア 分かりやすい発表とするために、発表内容を相互に確認し、班の意見をまとめる話し合い活動

生徒は、事前に担当する学習内容についての発表用資料を作成しているが、それぞれ個別に作成しているため、他とどのように関わっているかが明確になっていない。そのため、各自の発表用資料間の関連を明らかにし、班全体の発表の主旨について合意を形成するための打合せの時間を設定する。

イ まとめた情報をより分かりやすく伝えるための表現方法

プレゼンテーションソフトを用いて表現する際、相手が聞き取りやすい声の大きさや見やすい文字の大きさになっていなければならない。より分かりやすく伝える発表とするために、事前に発表用の原稿を作成し練習する場を設定する。また、発表の際には、聞き手が要点を理解しやすいよう、発表用資料を作成し配布しておく。

ウ 知識を整理し、それを基に自分の考えを明らかにするための表現活動

各班による発表を繰り返すことで理解した学習内容を整理するとともに、歴史的事象を捉えるための自分なりの視点を習得できたことを確認するために、白地図への作業的な活動を中心としたワークシートを作成する。また、その視点について、自分の考えをより明らかにできるように、相互に意見交換をする場を設定する。

3 授業の実践

(1) 単元名 世界の一体化と日本ー結び付く世界と近世の日本ー

(2) 単元の目標

16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きについて調べ、ヨーロッパの拡大や大西洋世界の形成と近世日本との関わりが分かり、時代の特質と日本の関係を考えるようにする。

(3) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用技能	社会的な事象についての知識・理解
・16世紀から18世紀までの世界の一体化の過程と日本の関わりに関心をもち、意欲的に調べようとしている。	・学習課題について計画的に調べ、調べたことを比較したり関連付けたりして、時代の特質と日本の関係を考え適切に表現している。	・必要な情報を集めて読み取ったり、図書や年表、その他の資料を活用して調べたりしたことをプレゼンテーション資料にまとめている。	・16世紀から18世紀までの世界の一体化の過程と日本の関わりなど、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

(4) 指導と評価の計画（12時間）

〔関〕・・・関心・意欲・態度 〔思〕・・・思考・判断・表現 〔技〕・・・技能 〔知〕・・・知識・理解

時	主な学習活動（丸数字は言語活動）	言語活動の意図	評価規準（評価方法）
1	<p>1 本単元の学習内容について見通すとともに、学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きについての理解を深めよう。</div> <p>② 班ごとに主題を決定し、資料収集を行う。</p> <p>③ レポートの作成を開始する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史に関わる主題を意欲的に考察していきけるように、班での話し合いを通して主題を自ら選択する。 事例の考察に必要な資料から有用な情報を読み取り、レポートにまとめる。 	<p>〔関〕興味をもって主題を選択している。（観察，ノート）</p> <p>〔思〕他の生徒に伝えるために必要な情報を取捨選択し，適切に表現している。（レポート）</p>
各自	<p>○ レポートを基に、プレゼンテーションソフトを用いて発表用資料を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報を精選し，かつ必要な視聴覚資料を補い，分かりやすい発表用資料を作成する。 	<p>〔技〕分かりやすい発表用資料を作成する。（発表用資料）</p>
2 5 11	<p>① レポートを基に作成した発表用資料に基づき，各班の発表を行う。</p> <p>【各時に行う発表の内容】 (第2時) ルネサンス (第3時) 宗教改革 (第4時) 対抗宗教改革 (第5時) 大航海時代 (第6時) アメリカ大陸の変貌 (第7時) 大航海時代の東アジア (第8時) 清の中国支配 (第9時) モンゴル帝国の継承者 (第10時) ロシアの成立と拡大 (第11時) オスマン帝国とヨーロッパ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4人で分担して発表を行いながら，班全体の発表の論理的なまとまりを作る。 プレゼンテーションソフトを用いて分かりやすい文字の大きさ，色，提示の仕方，説明時の声の大きさ，話し方に工夫する。 他生徒の発表を通して主題に関する知識を理解する。 	<p>〔思〕各発表者は，自分の発表内容について考察したことを適切に表現している。（発表，発表用資料）</p> <p>〔技〕各発表者は，適切な表現方法で，情報を伝えている。（発表）</p> <p>〔知〕発表の主題の内容を理解している。（ノート）</p>
12	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きについてまとめよう。</div> <p>② 16世紀以降の世界の各地域でどのようなことが起きており，他地域とどのようにつながっていたかをワークシートにまとめる。</p> <p>③ 自分や他生徒の発表を通して生まれた疑問点について他の生徒と意見交換する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第2時から第11時までの発表内容で得た知識を確認するために，資料を活用し，白地図やワークシートに具体的様相をまとめる。 	<p>〔思〕主題を設定した学習を通して習得した自分なりの視点を基に，考察した過程や結果を表現している。（ワークシート）</p> <p>〔知〕16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きについて理解している。（ワークシート）</p>

(5) 第2～11時の指導について（第11時の例）

ア 目標

友人によるプレゼン資料を用いた発表を通して，オスマン帝国の成立過程とオスマン帝国の特徴，ヨーロッパ諸国との関係について考察し，16世紀から18世紀におけるオスマン帝国の存在の歴史的意義を理解する。

イ 準備・資料

発表用スライド，説明用資料

ウ 展開

学習活動・内容（丸数字は言語活動）	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>オスマン帝国の成立の過程，主要人物とその政策，周辺諸国に及ぼした影響を知る。</p> </div> <p>② オスマン帝国について以下の順番で発表する。</p> <p>【予想される発表の内容】</p> <p>A オスマン帝国の概要</p> <p>B ビザンツ帝国の基礎知識とオスマン帝国の征服の過程</p> <p>C オスマン帝国の政治的・文化的特徴，主要なスルタンについて</p> <p>D オスマン帝国とヨーロッパ諸国との関係</p> <p>③ 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国についての基本的事項が理解できるように，教科書等を基にまとめるよう助言する。 ・オスマン帝国の領域にそれ以前に存在していたビザンツ帝国とはどのような帝国であったかを確認するために，同領域をオスマン帝国が征服していった過程を明示するよう助言する。 ・イスラム諸国の中でオスマン帝国がどのような地位にあったのかを理解できるようにオスマン帝国の繁栄の礎とは何であったのかについて考察させる。 ・オスマン帝国がヨーロッパ諸国に与えた影響，その後の関係における優位性の変化について理解できるように，プレゼンにその内容を明示するよう助言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔技〕各発表者は，適切な表現方法で，情報を伝えている。（観察，発表用資料）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国についての基本的事項及び周辺諸国への影響を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔知〕友達の発表から，オスマン帝国についての基本的事項について理解している。（ノート）</p> </div>

(6) 第12時の指導について

ア 目標

16世紀から18世紀の世界の動きから読み取った内容を言語化・図式化する。

イ 準備・資料

世界地図（白地図），ワークシート

ウ 展開

学習活動・内容（丸数字は言語活動）	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きについてまとめよう。</p> </div> <p>② 16世紀以降の世界の各地でどのようなことが起きており，他地域とどのようにつながっていたかをワークシートにまとめる。</p> <p>③ 自分や他生徒の発表を通して生まれた疑問点について，意見交換する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題を把握し活動の見通しをもたせるために，前時までの学習を想起させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔技〕主題を設定した学習を通して習得した自分なりの視点を基に，考察した過程や結果をワークシートの白地図に適切にまとめることができる。（ワークシート）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各地のつながりを意識して考察が進められるように，これまでの学習で習得してきた知識をワークシートの白地図にまとめていくことを説明する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔知〕16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きについて理解できる。（ワークシート）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をより広い視野から理解することができるように，各自が調べた事実を紹介し合い，意見交換するように助言する。

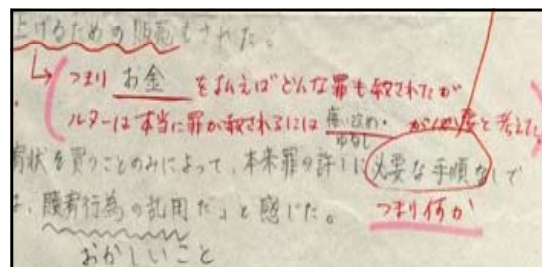
4 授業の分析と考察

(1) ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた指導計画の工夫について

ア 資料から情報を読み取り、知識を習得するための事前指導について

図書室を利用し、レポート作成における資料の活用方法や留意点を伝えながら、発表用資料をまとめていった。その後、資料1のように、添削と修正、再提出という活動を繰り返すことで発表資料の充実を図ることができ、事前に知識を整理し、自分の知識として習得することができた。

資料1 添削後のレポートの一部



イ 資料から読み取った情報を伝達するためのプレゼンテーションソフトによる発表用資料作成について

発表資料作成に関わる準備は、授業の時間外に各自の進度に合わせて行った。教師は、説明したい内容が資料に反映されているか、適切な文字の大きさや色となっているか、必要な図が効果的に使用されているかを確認し助言した。また、主題を絞った単純な資料の方が分かりやすいことを伝えた。さらに、プレゼンテーションソフトによるスライドを基に作成した発表資料を配布するとともに、その中の重要語句を抜粋して空欄補充の形式にした知識を確認するためのワークシートを作成した。適切な助言や発表補助教材を作成することで、読み取った情報を自分の知識として習得することができ、更に他の生徒に適切に伝達することができた。

(2) 互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にするための言語活動の工夫について

ア 分かりやすい発表とするために、発表内容を相互に確認し、班の意見をまとめる話し合い活動について

各自が個別に作成した資料を持ち寄り打合せをもち、他の班員がまとめた内容を確認した。その際、それぞれの作成資料の内容が、他の班員の発表とどのように関わっているかを確認させ、発表全体の流れが論理的に整合性のとれたものとなるよう指示した。教師はそれぞれの打合せに参加し、各自の役割を確認するよう助言を与えた。このことにより、班としてまとまりのある、分かりやすい発表とすることができた。

イ まとめた情報をより分かりやすく伝えるための表現方法について

情報を分かりやすく伝えるために、絵図や写真を大きく提示したり、クイズ形式で発表資料をまとめたりした。発表時は、教師が司会をしながら生徒の説明で不足している内容があれば補足した。授業が進むにつれ、他の班の発表に影響を受けて学級全体の意識が高まり、リハーサルをして発表に備える班も見られるなど、より伝わりやすくするために表現方法を工夫した発表ができた。

ウ 知識を整理し、それを基に自分の考えを明らかにするための表現活動について

一連の発表が終了した後に、理解できたことや疑問点として残ったことを、資料2, 3 (p21) のようにワークシートや白地図を使用してまとめた。その内容は学級全体に対して発表し共通で理解したことと、それぞれの視点で捉えた部分がある

3 研究のまとめ

社会・地理歴史・公民科では、研究主題「調べ、考え、表現する力をはぐくむ社会・地理歴史・公民科学習指導の展開」に迫るために、ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた授業づくりを中心として研究を進め、県内小学校1校、中学校1校、高等学校1校で授業研究に取り組んだ。以下、研究の取組から本研究実践について主な成果と課題を述べる。

(1) 成果

ア ねらいを明確にした言語活動を意図的に位置付けた指導計画の工夫

授業研究1では、複数の資料を比較しながら、個々の人物の業績について考察するための言語活動を繰り返し、単元のまとめにおいて、学習した内容を活用して考える場を設定することで、江戸時代の文化や新しい学問の意味や意義について考え、表現する指導計画を作成した。単元を貫く学習課題の工夫や学習の成果を用いて人物のキャッチコピーで表現する活動は、調べ、考え、表現する力をはぐくむための手立てとして有効であった。

授業研究2では、調べた内容をイラストマップに表現する活動を通して、地域的特色を多面的・多角的に捉えるための言語活動を繰り返し、調べた内容を基にキャッチフレーズを考え、作成する場を設定することで、アフリカ州を大観し、地域的特色を表現する指導計画を作成した。生徒自らが選択した資料に基づくイラストマップづくりや単元の始めと終わりに作成したキャッチフレーズを比較する活動は、調べ、考え、表現する力をはぐくむための手立てとして有効であった。

授業研究3では、事前に調べて考察を加えた学習内容をプレゼンテーション資料とプリントにまとめ、それらを用いた発表を基にした授業を繰り返し、発表内容から習得した知識を関連付けて白地図等にまとめることで、16世紀から18世紀の世界の一体化の動きについて捉えていく指導計画を作成した。適切な資料の選択や聞き手を意識した発表資料の作成、既習事項を活用した事象の関連を考える活動は、調べ、考え、表現する力をはぐくむための手立てとして有効であった。

イ 互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にするための言語活動の工夫

授業研究1での、学習内容を基に考えたキャッチコピーを伝え合い、「総選挙」として投票する活動は、互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にする手立てとして有効であった。

授業研究2での、アフリカ州が抱える諸課題の共通性について話し合い、それを基にアフリカ州の展望について考える活動は、互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にする手立てとして有効であった。

授業研究3での、世界の一体化への動きについての意見交換を行い、自分の考察してきた過程や結果について振り返る活動は、互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にする手立てとして有効であった。

以上のように、本研究における三つの授業研究では、調べ、考え、表現する力をはぐくむための実践ができたと考える。

(2) 課題

以下の点を改善していくことで、本研究での成果を更に深化していきたい。

- ・言語活動と結び付けながら、より意欲的な追究活動が進んでいくような学習課題を工夫する。
- ・学習問題づくりや調べる学習を行う際に、適切な資料が提示できるように、十分な教材研究を行う。
- ・調べて考える際に必要な資料活用能力（適切な資料の選択、的確な情報の読み取りなど）を、日常的に育成する。
- ・資料活用能力や言語表現能力を高めるために、言語活動を行う時間をより多く確保し、指導計画に位置付ける。
- ・小集団活動による言語活動を成立させるために、班編成を工夫したり、支援を充実したりする。
- ・児童生徒が調べて考えたことを表現するための手立てを工夫する。

<引用文献>

- 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」平成20年1月
文部科学省「小学校学習指導要領解説社会編」平成20年8月
文部科学省「中学校学習指導要領解説社会編」平成20年9月
文部科学省「高等学校学習指導要領解説地理歴史編」平成22年6月

<参考文献>

- 下田好行（研究代表者 国立教育政策研究所 総括研究官）
『『キー・コンピテンシー』に基づく学習指導法のモデル開発に関する研究－思考力・判断力・表現力の育成と「言語活動」の充実を図る学習のありかた－』平成22年3月

関係者一覧

1 研究協力員

八千代町立西豊田小学校	教諭	永盛 健二
つくば市立筑波西中学校	教諭	内藤 雅巳
県立藤代紫水高等学校	教諭	石本 由布子

2 茨城県教育研修センター

所長	谷田部 佳見
教科教育課 課長	佐藤 誠
同 指導主事	鈴木 稔